

美術 I レポート2 取り組みのヒント

レポート2では、レタリング（文字をデザイン的に表す方法）の基本を体験します。
このレポートでは基本的な和文書体の「明朝体」と「ゴシック体」に挑戦し、違いを学び
ましょう。（教科書 P.141）

レポートの左半分が「明朝体」、右半分が「ゴシック体」の課題です。
それぞれ2つ課題がありますが、取り組み方は同じです。
このプリントでは、明朝体を中心に説明します。

① 印刷された「明朝体」や「ゴシック体」の例を参考に、

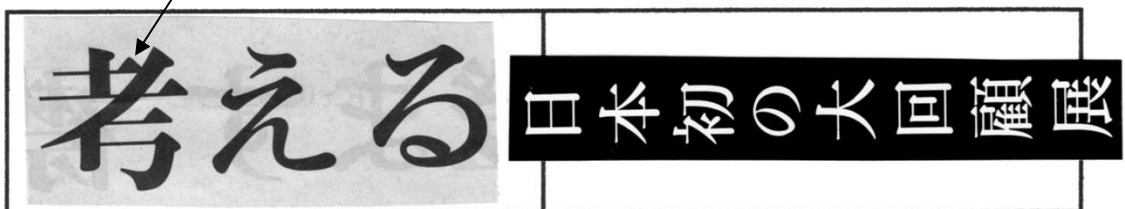
新聞や雑誌、チラシなどからそれぞれの字体を 2例見つけて、貼り付けます。

- ※ 新聞や雑誌が手近にない方は、印刷された文字なら何でも構いません。
簡単に手に入るチラシやフリーペーパーなどを利用してください。
- ※ 必ず漢字の入っているものを選んでください
- ※ 1文字ではなく、簡単な単語や文章を貼りつけてください。

<明朝体の例>

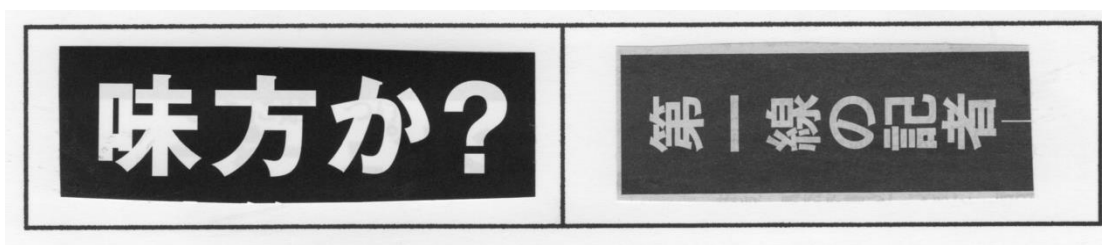
「明朝体」は特に漢字の場合、縦線が太く、横線が細く、文字の端には
「くさび型のうろこ」が付いている書体です。

「くさび型のうろこ」



<ゴシック体の例>

「ゴシック体」は、明朝体とは違い縦の線も横の線もほぼ同じ太さです。



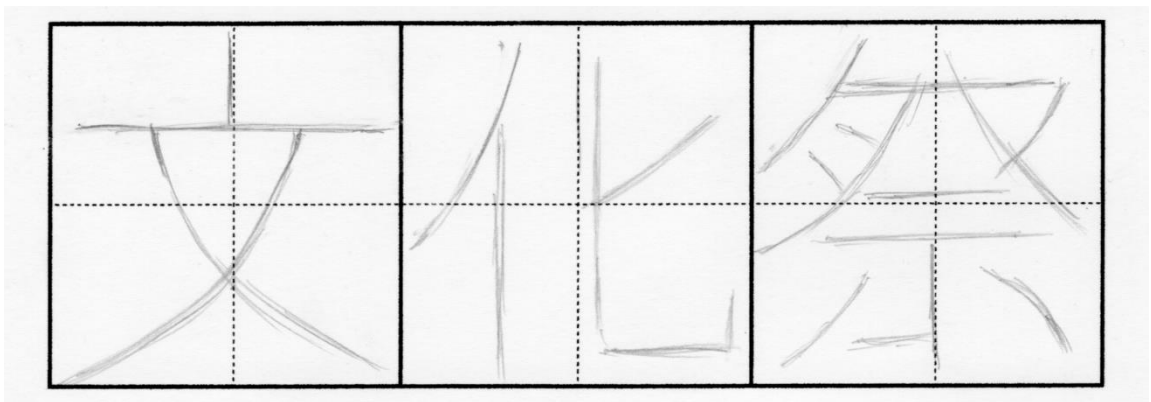
② レポートに印刷された「文化祭」の文字を拡大して書き写します

・・・ここでは、「明朝体」の取り組み方を中心に説明しています。

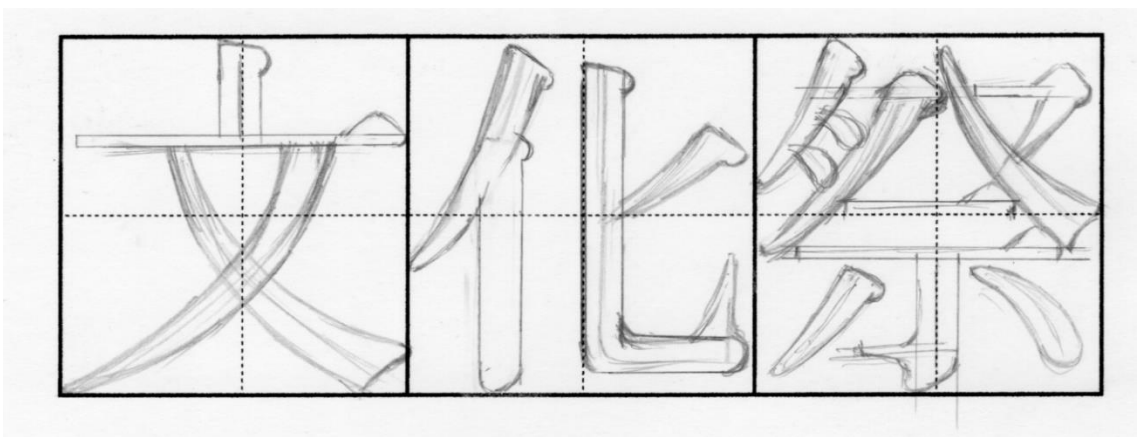
1. 取り組みの前に、レポートに印刷されている「文化祭」の文字に正方形の枠を書き込み、縦横の中心に十字の線を入れると、目安になって、写すときの参考にしやすいです。



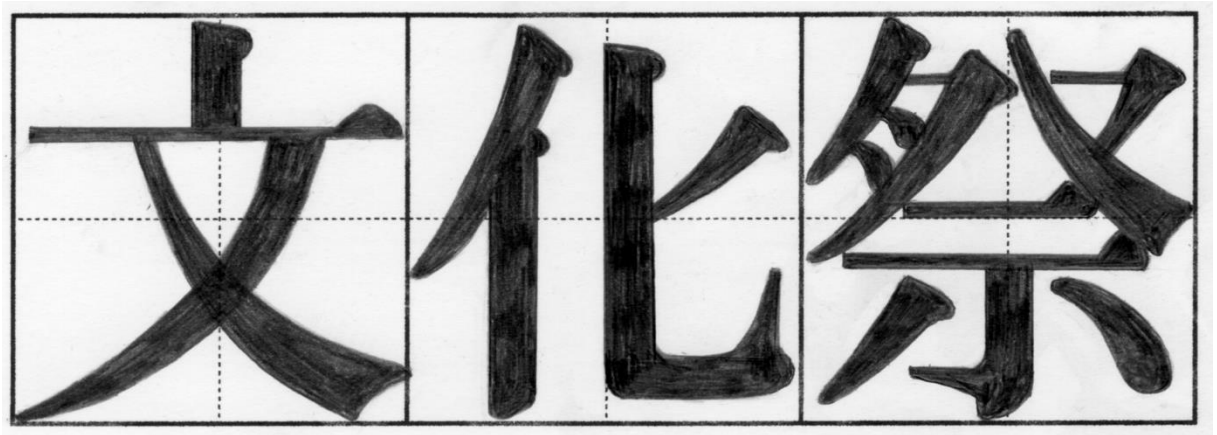
2. 3つの枠それぞれに印刷されている十字の点線を目安にして、まずは、**定規を使わず枠いっぱいにバランスよく、鉛筆かシャープペンシルで下書きをします。**後で太く肉付けすることを考えて、少し離し気味に描きます。



3. その上に縦の画は太く、横の画は細く肉付けしていきます。
文字は違ってても縦の画は全て同じ太さに、横の画も同じ細さに見えるように調整しましょう。
ハネやはらい、点などはレポートの裏面にある「明朝体の構成要素」を参考に。
線が決定したら、定規を使ってしっかりと文字をなぞっていきます。



4. 必要な線だけを残して消しゴムできれいに消し、
下のように文字の中をしっかりと黒く塗り込んで完成です。



5. 参考にして、「ゴシック体」にも挑戦してみましょう。

